

寿会湘南支部ニュース 第14号

～湘南支部のスローガン～
長寿社会を健康で生き抜く!



1・サークル活動ご案内(1月)

初詣・新年会のご案内

- ☆ 日 時 : 2018年(平成30年) 1月19日(金)
- ☆ 集合場所 : 江ノ電・江の島駅 改札口 AM 10:00 集合
- ☆ コース : 江の島駅→龍口寺(お参り～鐘楼～五重の塔)→江島神社→昼食
- ☆ 新年会と会費 : 3,000円 江の島裏通りのお店で昼食を兼ねて行います。
- ☆ 参加申し込み : 1月10日までに下記へお願いいたします。
景山 康二 宛て
 - ・メール koji_k194812@jcom.home.ne.jp
 - ・電話 090-1054-3100

☆ <幹事> 大曾根・伊藤・景山

☆ 変更・中止の場合は前日の昼までに連絡いたします。



龍口寺から江の島神社までを散策し、お魚の美味しいお店で新年会です!

役員一同、ご参加お待ちしております

～ 龍口寺の見どころ ～

山を使った広い境内には、本堂、龍ノ口刑場跡、延寿の鐘、五重塔、日蓮が刑を待つ間に幽された御霊窟、七面堂、経八稻荷堂、御仏舎利塔など数多くの見所があります。



日蓮聖人が、斬首される寸前に「江ノ島の方より満月のような光ものが飛び来て首斬り人の目がくらみ、恐れおののき倒れ斬首の刑は中止」と伝えられています。



三浦半島のグルメ
実施日:2017年9月29日(金) 快晴

参加者

石井 國喜、市楽 正博、大曾根 収、景山 康二、川崎 勝弘、古林 茂、齊藤 秀昭
中谷 泰治、飛田 和男、浜田 正義、八木 関三、伊藤 恵美子 (以上12名)

江ノ島に続き今年も城ヶ島での磯グルメ。10万年前に海底から顔を出した三浦半島の最南端の島で三崎漁港の天然の防波堤になっている景観を城ヶ島大橋(高さ21m)から眺め、プレート沈み込みで隆起している海岸段丘から磯の景観を楽しみながら散策して漁協直営のお店へ。

カワハギ(キモ付き)・マダイ・ハタ・イナダ・マアジ・アオリイカ・ジダコ・マグロと獲りたての地魚刺身にメジナの煮付け、イカ丸、ヒジキ、シオカラ(絶品)・サザエの炊込み御飯・伊勢エビ味噌汁等をつまみに恒例の大懇親会。当日はお店を貸切りにして貰っているので板前さん(店主)・漁師さん・スタッフさんも途中から参加で更に大盛り上がり、漁師さんの心意気、極上の海の恵みに皆さんの笑顔・笑顔、会話も御酒も進み秋田・山形・新潟・関東・九州と御酒の全国巡り。

大正の初めに北原白秋がこの地に転居して、三崎の海光・日光・野菜・魚鱗に潑刺さを得た様に参加の12名の方達も大いに楽しまれた一日でした。

～城ヶ島公園には、老若男女で楽しめるハイキングコースがたくさんあります～



城ヶ島公園にて



「魚師の店」にてその日採れた魚を頂きました

仕事を辞めたので
これから参加します

仲間と飲む酒
は格別だネ～

お酒より
食い気です

第10回 「琵琶湖周遊」……(後編)

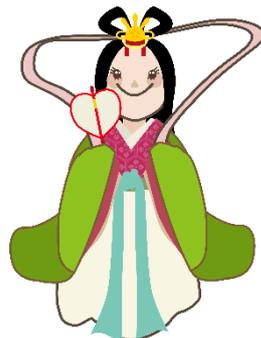
旅人:井澤 勇



石に乗り上げる事無く 10m程通り過ぎたが、ブレーキを掛けて後ろを振り返った、さっきの石はユックリ動いているのではないか、良く見ればなんとソレは生きた「亀」だったのだ、しかし通過する車は「亀」だと認識できずにスピードを落とさず跨いで走り去るのだ、このままでは必ず起きる事が起きると確信した、生き物だと思った瞬間、その上を車が通過する度に身が縮む思いに駆られた、何度かひやひやししながら車を見送った私だが、意を決して自転車を道端に止め「亀」の元に駆け寄った、走る車が僅かに途絶えた時を見計らって、中央線まで歩いて渡った「亀」を避難させるべく片手で持ち上げ様としたが、その重さは尋常ではなかった、仕方なく両手で「亀」を抱えて路肩に戻った。しかし間一髪で避難させたこの「亀」をどうしたら良

いのか、私は自転車に乗らなくてはならず、かと言って持って帰る訳にもいかず、近くに亀を預かってくれる奇特な知人もいない、仕方なく私は水辺の方に亀を抱えて歩き出した。湖までの距離はさして遠くは無いのだ、その間「亀」は頭は勿論、手足尻尾まで甲羅の中へ引っ込めたまま、亀から見れば見も知らぬオジサンに抱えられては無理ない話しである、まして天気の良い日ぐらいは道路の向こう側に行ってみたかっただけかもしれない、解りやすく言えば旅行の途中で赤の他人に無理やり引き戻されたとしたら「亀」でなくても気分は悪い、水辺に着いた私は「亀」の頭を湖の方に向け砂の上にそっと置いた。暫くすると「亀」は首を出し続いて手足を出し、何事も無かったかのように、ソソソと歩き出し湖の中へ消えていった、亀が消えた水辺を暫く見ていたが、ふと我に帰って「のんびりしては居られない」自転車旅はまだ続くのだ、急にのどが渇いていることに気がつきペットボトルのお茶を一口飲んで再びサイクリングを続行した。

良い事をしたのか、それとも余計なお世話だったのか解らないが、その日、新大阪から伊丹空港に戻る道を間違え 15Kmで着くはずが 30Kmも余計に走ってしまった。北口と南口を間違えたからであるが、予定した飛行機に乗れたのはまさに奇跡と言ってよい。昔聞いたおとぎ話ではないが、おそらく「亀」を助けたお礼に、「乙姫様」の良き計らいが有ったからだと今でも信じている。





野島町の木遣について

市楽 正博



前回は私と野島町について若干ふれましたが、今回は野島町の木遣についてお話致します。
「よう～いやあ～れえよ～やあ～れてこ～せえ～ええええ～えい……」吟、謡、いや合唱。いや輪唱、いや罵声が夕闇の町内会館の中から聞こえてくる、これは木遣保存会が定例的に行っている稽古(練習ではない)である稽古は年間 20 回程度おこなわれるが、各地保存会により内容は異なるが、当保存会の稽古は木遣保存会長(以下師匠)のやり方により稽古の最初から車座になり「酒盛り」が開始される。最近の話題や会の活動状況など「つまみ」にしながらか約 4、50 分掛けて、のどの湿り加減や気分的開放感に浸りながら気分が乗ってくると、ようやく師匠の合図で木遣の稽古となり「よう～……」に入っていくのが常である。

私が木遣会に入った理由はたいへんに不謹慎な理由である。祭礼での新人の仕事はゴミ処理や力仕事割り当てと決まっているが、祭礼の華(?)である木遣役になれば「祭事の先頭に立ち、扇子を持ち開き、声を出すだけでよい」と先輩から甘い勧誘を受けたのが始まりである。

或る時、稽古で隣に座った師匠が私に、「君の趣味は何か」と聞かれ、私は「特にありません」と言った。「師匠は何ですか」とお聞きすると「趣味は女だ」とあっさりと言ってのけた。師匠は若いころから民謡や端唄をやっていたので、声の高領域に定評がある人でもあり、昔は花街にずいぶん通ったようで、興が増せば都々逸や端唄を披露する粋な師匠である。

「やあ～れえこ～らあ てんとう～ さまのあが～ら～ぬうちやあかえ～しゃ～せぬぞ」とか艶のある謡いを披露して、皆の輪の中でいつもワンマンショウをやっていたが先年 89 歳で鬼籍に入った、残念である。今日も野島が茜色かかった虹色に染まるとき、師匠が背広に烏打帽子姿で、いつもの癖でせかせかと小股で左右の肩をゆすり夕照橋を渡って街に繰り出す姿が思い出される。

木遣の稽古は台本が文字と譜面で伝わっているのではなく、師匠が謡っているのを自分なりに耳目を澄まして繰り返し覚えていくことが重要である。師匠は稽古になると姿勢に力が入り、人の唸りをなかなか良しとせず、会員は了解を得るために同じ節を何度も繰り返したことが懐かしく思い出される。木遣を勉強するならば長唄の声の出し方を勉強すべきだといつねづね言われていた。

ながながとお話しましたが、ここで野島町の木遣についてお話致します。

野島木遣は「江戸火消四十八組の内」の「も組」の木遣歌が伝わっていると云われている。当時の「も組」の区域は銀座町、西紺屋町、南紺屋町、三十間掘、丸屋町、数寄屋町であり現在の「も組」は新橋、銀座、の各一部を受け持っている。それではなぜ江戸の木遣が当時の相州金沢に伝わったか、という疑問があります。

野島の漁師は海産物の消費先を江戸に求めて、日本橋の魚河岸などへ鮮魚を早船で運ぶのが日常であった。江戸では、季節によっては祭礼を身近に見て、帰りどきで天候の悪い時は 2、3 日の足止め時に日がな暇をもてあそぶ中で「も組」の木遣歌の旋律や雰囲気馴染んだという。日本橋では江戸の粋、「も組」に惚れ込んだ野島人が「も組」の木遣歌を習って、野島に持ち込んだようだ。録音機の無い時代に、よく正確に難しい旋律を習得したものだと思う。(次ページへ)

肝心の木遣りの謡い方について簡単に述べてみますが、つぎのとおりです。木遣りの最初の入りは会の長が一人で遣り声を発します、これを音(おと)と申します。最初に音を務めるのは木遣保存会長と野島では決まっていますが、例大祭の最初の宮出し(拍子木で神輿がスタート)の時や渡御(橋など渡る)などの大きな祭事の時に限ります。音に続いて大勢の者が謡います。これを側(がわ)と申します。例大祭では囃子方(太鼓・笛・釣鐘)の音曲に合わせて、木遣の出し物も変えていきます。これを繰り返し謡い街中を練り歩きます。

・・・まあこんな風で行われていますが、課題は木遣道を志す若者が極めて少ないことが現状で、伝統芸能を続けるためにも後継者育成を図りたいものです。支部の皆様、今からでも遅くありません、木遣をやりませんか、待っています。

5・特派員便り・3

「北アルプス表銀座」を歩いてきました

旅人:飛田和男

8月13日～16日で中房温泉⇒燕岳⇒大天井岳⇒常念岳⇒一の沢コースを楽しんで来ました。登り標高差1,300m強、下り標高差1,200m弱、若い頃はお散歩コース等と言っていましたが、40～50年後の今はキツイ&キツイ。

花も終わり、紅葉も未だの山は静かでした、山小屋も空いています。それでも若い男女が山へ戻って来ているようで良い感じです。

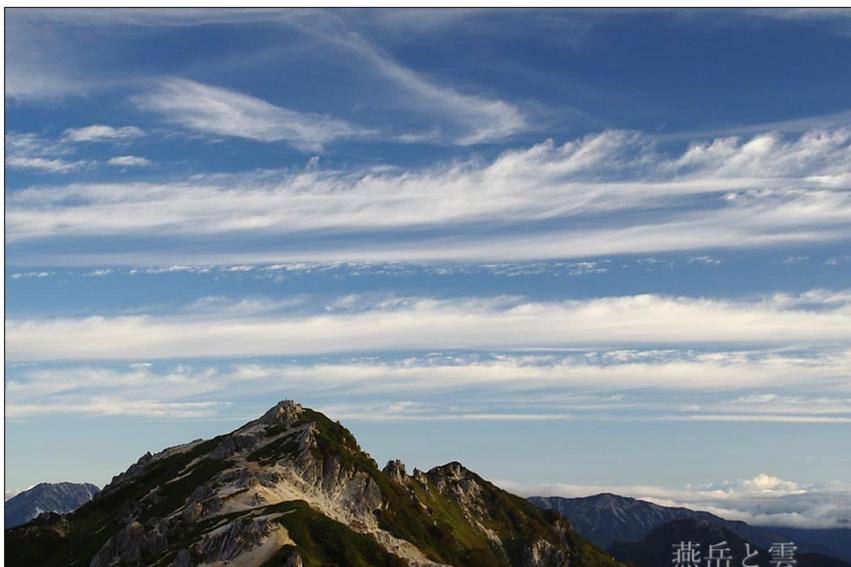
「若者」何年位歩いておられるんですか？

「私」50年

「若者」ワー凄い、尊敬です。

このあと、2階から食堂へ降りるとき、足が痛くて手すりにしがみついたかったけれど、歯を喰いしばって我慢、歯の間に噛んでいたのは見栄張る君でした・・・何とも
それでも、秘湯、山菜、地酒、大気の揺らぎで瞬く星々、雪渓と清流、お花畑、里人の空間意識としての山(里山→奥山→岳)のあり方など、これからも長く続けたい
楽しみです。下の写真の雲形(燕岳)の天気兆候は如何に・・・

台風が近づいています



(りんどうの花)

6・会員より情報提供

この度、三澤貞雄様からネットを駆使し、ビクター70年史等懐かしいビクター関連の記事を多数URLとして頂きました。又、旺盛な愛社精神、熱い情熱も感じられる投稿も頂きましたのでここに紹介させていただきます。 古林

ビクター関連 You Tube の紹介

湘南支部会員 三澤 禎雄氏 提供

日頃、「寿会 OB NET」をはじめ「寿会湘南支部ニュース」を見て皆様共々楽しませて頂いております。

私事ですが、私は4人の父に育てて頂き今日があります。まず、小学生の時、実の父に東京愛宕山のNHK放送博物館に連れて行って頂きました。この時神様は私の人生の台本を書かれた様です。主役は無理でしたが脇役を一生懸命演じて来ました。

二人目の父は中学生の時、アンテナの開発者である八木秀次先生の下で学び「自分の欠点は隠すのではなく、活かすことを考えなさい」と教えて頂きました。

三人目はビクターに入社し高柳健次郎氏の下でカラーテレビの仕事に就き「他の人がやらないことにチャレンジしなさい」と言われ、岩井工場の建設に携わらせて頂きました。四人目は高野鎮雄氏の下でビデオの仕事に就き「夢中で行動しなさい」と言われ、今度は横須賀工場の建設に携わらせて頂きました。そして、神様は未熟な私をここまで育てて頂いたビクターにお礼をしなさいと定年退職までの7年間は本社人事部安全健康管理室で従業員の安全を願って仕事をさせて頂きました。

退職後「ふと！振り返ってみましたら、なんと東京のNHKから発射されたテレビ電波を八木先生のアンテナで受信し、この電波を高柳氏のテレビで映像を楽しませて頂き、この映像を今度は高野氏のビデオに保存して後世に残すと言う流れは、まさに私を育ててくれた4人の父そのものでした。

私も後世に残すものはないものかと思い、まず「岩井工場の建設当初から閉鎖されるまで」の写真と各職場で作曲した「職場の歌」を使用してDVDを作成しました。

その後、100歳を目の前にした親の介護のため外出が儘ならず、止む無く家にいて釣り竿も要らず家の中で釣るものはないかと思い「インターネット池でビクター魚」の釣りを楽しんでおりました。この釣り上げた新鮮なビクター魚365匹を皆様にご賞味頂きたく

[「ビクター関連You Tube」のURLをExcel](#)

にまとめてお送りしますので、お時間のある時少しずつご覧頂ければニッパー君も喜んで頂けるものと思っております。これを機に皆様も、このインターネット池にはまだまだビクター魚が沢山泳いでいますのでトライしてみませんか、とても楽しい時間が過ごせますのでご紹介します。

末筆となりましたが、皆様のご健勝とご活躍を願っております。

「ビクター高柳会ホームページ」に、「[ビクター70周年史](#)」を紹介中
→ 最後に入り方は別紙添付(パスワードなく入れます)



前回、中国人の信用の問題を取り上げました。少し突っ込んで書きます。

長年現地で出会った中国の多くの人に、そのことを問い質しました。相手は政府役人、地方共産党幹部、医者、大学の先生、警察官、タクシー運転手、取引先の幹部達、食堂の給仕さん、理髪店店員等々。凡そ七～八割の人が「中国人は信用できない。日本人は信用できる」と言います。ついでに「では韓国人は？」聞くと、これも大体の返事は「韓国人は信用できる。但しほんの少しだけ」と言います。

これは社会一般のことで、本稿第二回で書きましたが、私の見立てでは中国は「わたる世間は鬼ばかり」の社会なので七～八割の人が中国人でありながら同じ中国人は信用できないのです。信用できるのは少数の身内と朋友だけです。その中で生き抜いて行くには身内と朋友以外に少しでも社会の権力者や富裕層との人脈を広げ、そして何としてでもお金、富を獲得するのが、必須です。日本のような国民皆保険や国民年金・厚生年金、生活保護制度等社会保障制度は、国民全体を対象にしたものは現在も将来とも絶対に不可能です。自分で自分の身と家族を守るしかないのです。そのために日本人から見ると異常なまでの自己主張、自己保身、隙あれば、相手を蹴落としてでも自分が生き残る社会なのです。

さてそんな厳しい社会ですが、私が会社の中でいろいろと試みたことから見ると、社会全体で見るとの別に、人間性は、案外まともと言う感じです。一つ例を書きます。

会社の事業年度は日本と違い 12 月末で、おしまいなので、一月初旬に、部長達と「昨年の成果と今年の方針」と言うテーマで発表会を行いました。昨年まで司会をしていた会社の顧問弁護士に今迄の慣例を聞き、今迄、時間制限なく言いつばなし聞きつばなしであったので、私はそれを変更して、時間を一人 15 分の制限をつけ、成果は箇条書きで更に文章は極力少なく数字で表すこととさせ、更に発表者以外は、発表者の実際の成果との一致具合、発表内容の理解度(分かり易さ)、方針は、他部門長として納得できるか、実現性はどうか、経営効果上の評価項目毎に五段階評価をさせて、結果を持ち寄り集計しました。

ふだんから嘘やハッタリや自慢の多い部長や、発表だけは立派でも実際は違う部長、そういう面は非常に明確に他の部長達の評価に出ていました。びっくりするほど、みんなのことをよく見ているなという感じで、それまで私なりに彼らに対する偏見がありました。賄賂を取ってしようといまいと、それぞれが人間としてはまともだなと感じました。

更に社内や取引先の評価では、他人の手柄を横取りし自分の成果として吹聴するとか、自分の失敗を部下や他部門、取引先に押し付けたりする人間や、自己主張、自慢ばかりする人間、上級幹部から問題を指摘されるとすぐに部下を怒鳴る管理職は何処でも同じですが、極端に嫌われるし、従って協力者がいなくなり成果も出せなくなり、化けの皮が剥がれるのは中国も日本も同じで、こういう人間としての基本的な面は、何処も変わらないものをつくづく思いました。同じ人間としての喜怒哀楽の感情だけでなく対人関係では共感するものも多くあります。今もって何年もの交流あった人達と久しぶりに逢い彼らから「遠方より朋きたるあり、また楽しからず也」の論語の一節を引用して歓迎されると、私も心温まる思いがします。人間として基本的に変わらない部分だと思います。

中谷



福州市税務署長達と



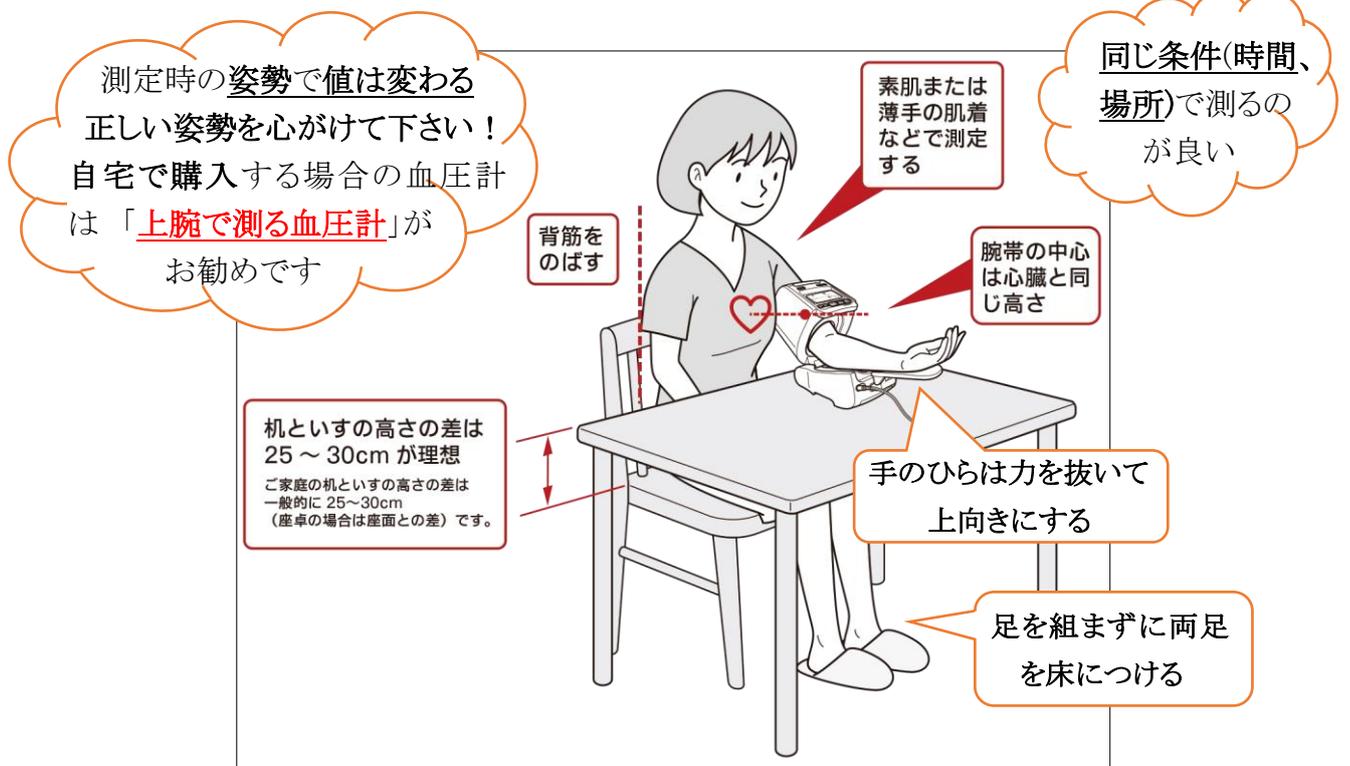
洛陽の国営企業総経理と

高血圧について

～今年の総会アンケートで一番多かった高血圧対策～

高血圧は、脳梗塞、眼底出血、心不全などを引き起こすと言われてはいますが、高血圧と診断されても怖がることはありません。医師の指導を受け、治療や生活を見直すことで快適な生活を送り続けることができます。

まず、毎日血圧を測ることをお勧めしています。記録を取る事で、(治療を受ける受けないに関係なく)他の疾病の時にも記録は、何にも勝る治療のデータベースになります！



温暖化と言われてはいますが、温度差を避ける環境、生活を心がけることが大切です
また、塩分を控えると血圧はさがります！

帽子、マフラーで頭と首を寒さから守りましょう

食塩摂取量の目安は、1日6g未満です

1日1gの減塩で血圧が1mmHg低下



血圧が4mmHg下がると、脳卒中による死亡を1万人、
心筋梗塞による死亡を5,000人減らせます
(平成26年(2014)人口動態統計 厚生労働省)



パソコン教室のご案内

2013年7月から始まりパソコン教室は、2017年11月で45回になりました！

～45回目の内容のご紹介～

- ①会員の廣田氏が、WI-FI ルータを使用してネット接続に成功されたので紹介して頂きました。会場のかながわ県民センターではWI-FIの接続は出来ずネットは見れません。今回加藤氏指導の元、全員が接続できて良かったのですが、結局は経費が掛かる為に断念せざるをえませんでした。でも、この方法で、どこでもネットを使えることを知ったのは大きな収穫でした。
 - ②現在問題のウイルス、ランサム・ウェア対策として、データを狙うので外付けHDDにデータを定期的に一括コピーする癖をつけること。データを一括コピーする時以外は外付けHDDの電源は入れておかないこと。
 - ③ファイル名、フォルダー名の一括変更の確認。
 - ④エクセルの表の番号を奇数、偶数だけにする方法で実際にやってみる。
- 以上の内容でした。どうぞ、教室風景を見学にいらしてください。

*申し込み先(問い合わせ): e-mail:emiko2395@amail.plala.or.jp 伊藤 迄



10・会員情報

各支部より訃報報告 (2017年5月～2017年11月)

ご氏名	支部	ご命日	享年
鈴木 紘一	湘 南	2017年 5月 21日	78
野村 孝夫	中 部	2017年 6月 20日	89
石川 哲巳	千 葉	2017年 8月 21日	78
佐塚 浩文	湘 南	2017年 9月 6日	75
英 孝	横 浜 南	2017年 9月 13日	84
田口 由美子	神奈川中央	2017年 10月 30日	74
橘川 方昌	東 京	2017年 11月 4日	93

皆様のご冥福を謹んでお祈り申し上げます

11・編集後記

先日駿府城城址の石垣をお堀の船から眺める機会に恵まれました。築城当時の野面積みの所から台風で崩壊して最新技術で積んだ石垣迄、更に木の根で膨らんだ石垣や各地の大名の刻印のある石等、長い歴史とそれぞれにドラマを感じて来ました。皆様も今年の歴史を健康で締めて良いお年をお迎えください。

発行日 :2017年 12月1日
 発行人 :古林 茂
 編集人 :伊藤 恵美子
 発行 :日本ビクター寿会